

き

気立てよく まめに働く  
久子夫人

藤樹先生の夫人である久子さんは、たいへん気立てがよく、素直で骨身を惜しまず、陰日向なく、よく働かれたと言われている。



ゆ

夢に見た 故郷めぐす  
雪の旅

愛しい母へのあかぎれこう葉を持って、故郷小川村の母に会える喜びを胸に、雪の寒さの中を旅する与右衛門（藤樹先生）。苦勞の末、よ



うやく会えた母は、こう葉のみを受け取ると、厳しい叱咤の声とともに、与右衛門を雪の中、大洲へと帰した。そこには、子を思う母と、母を思う子の言葉を超えた、熱い愛情があったことと思う。

藤樹かるた制作委員会委員

足立清勝・飯田典子・石黒紀代子・  
北川暢子・清川貞治・高谷美智子・  
山本義雄 (五十音順)

### 藤樹記念館通信 ⑬

安曇川中学校チャレンジウィーク  
(職業体験実習) をとおして

近江聖人中江藤樹記念館

武田 基裕

中江藤樹の教えの様にユニバーサルに伝わる平易な表現、持続可能でやわらかな表現、わくわく感のある表現で伝える努力をします。でも、また、堅い表現が多くなるかもしれません。その節はお許しください。

七月下旬から八月月上旬にかけて、安曇川中学校二年生の生徒さん女子二名、男子五名が「職業体験学習」に来られました。以下、本事業の目的です。(1) 実際に働くことで勤労に対する正しい認識をもつ、(2) 貴重な体験を通して自らの進路決定の参考にとする、(3) 人々とのふれあいを通して社会人としてのマナーを学ぶ(全て安曇川中学校資料

抜粋)とあります。これらの目的は基本のキですから、受け入れ側もしっかりそれらを意識しながらの職業体験実習となります。今回、体験いただく予定だった仕事は、接客業務は外し、庶務的な仕事、主催事業の準備、施設内清掃、維持管理等々でした。しかし、コロナ感染状況が悪化し、主催事業が中止となったため大きく方向転換しました。実習時間も短くし、中江藤樹の教えを学んだり、庶務業務を増やしたり、学芸員の業務を学んだりしながら「職業体験」していただきました。

生徒さんたちの体験を支援しながら、コロナ禍での学びや日常の部活動、中体連の大会の様子等のことを話していると、心底、「若い」って



素晴らしい、羨ましいと思えてきます。この子たちは「これから」なんだと自然に伝わってきます。わたしたちの世代も「これから」と思う時も「ほんのたまに」ありますが、それにはかなり無理があります。「若さ」は財産です。何でも吸収できるこの多感な時期にキャリア教育を行うことこそ意義があります。若い感性を生かしながらキャリアを積んでいって欲しいと願いながらの職場体験です。

一方、多感どころか、喜怒哀楽も少なくなり、鈍感の極みになりがちな昨今、それらの若い方に生きた職業の楽しさや、厳しさを伝えることは難しいことですが、責任は重大です。

昨年から、知り合いの学校職員さんから頼まれ市内二中学校の職業体験実習を受け入れています。実際、平常の業務にプラスの業務となり、職員には負担はかかるのですが、地域の子どもたちを育て、本施設を認知してもらい、人の行き交う藤樹記念館とするために小規模施設ですが、たくさんの生徒さんに来てもらうようにしました。日頃は年配層の方の来館が多いのですが、この期間、中江藤樹もきつと若い方が実習に取り組んでくださっていることを喜んでおられるでしょう。

学齢期の職業体験、キャリア教育という点、もうかれこれ三十年ほど